



## 循環型社会の形成

高速道路の建設・管理、オフィスでの活動を含む事業活動において、環境負荷の少ない資材の調達や建設副産物をはじめとする廃棄物の3R（発生抑制、再使用、再資源化）などに取り組んでいます。

### マテリアルフロー 当社単体 2020年度

当社事業で使用するエネルギー・物資の入手からリサイクル・処分までの流れを示しています。



### グリーン調達の推進

グリーン購入法に沿った調達方針を定め、できる限り環境への負荷が小さくなるよう努めています。高速道路の建設・維持修繕工事において、70品目を対象に調達を行いました。また、事務用品などのグリーン調達率は98.1%となりました。2020年度からは調達率100%の目標達成に向け取り組んでいます。

### 横断幕再生プロジェクト

阪神高速道路で使用した横断幕をリサイクルする「横断幕再生プロジェクト Re:loop 阪神高速」を実施しています。カラフルで雨風に強い横断幕の特性を生かし、バッグやテント幕などに再利用しています。

また、使用済み横断幕を企業・団体に無償で提供し、有効活用していただく取り組みも実施しています。



アップサイクル品の一例

## より良い都市環境の創造と共生

騒音の低減や環境ロードプライシングなどによる大気質の改善に取り組んでいます。また、地域との連携や社会への貢献のため、景観など周辺環境との調和に配慮しています。

### 沿道環境の改善

#### ●遮音壁の設置

走行する自動車からの騒音を低減するため、吸音効果の高い遮音壁などを設置しています。



遮音壁の例

#### ●環境施設帯の整備

沿道のまとまった土地を植樹帯とする環境施設帯を整備して、騒音の軽減、大気質の改善、緑化による潤い創出などに取り組んでいます。



環境施設帯の例

#### ●「環境ロードプライシング割引」の実施

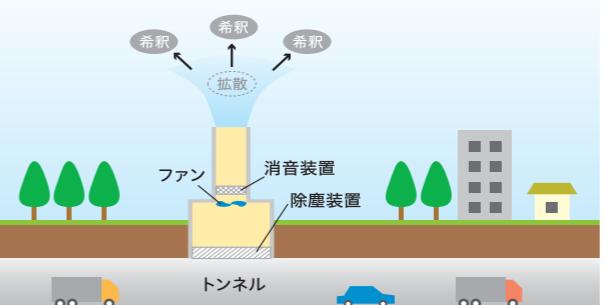
国道43号・阪神高速3号神戸線沿線の環境改善のため、2001年11月から、5号湾岸線の大型車の料金を割り引くことで誘導する「環境ロードプライシング割引」を実施しています。以降、割引率や対象車種の拡大などにも取り組み、徐々に、国道43号から5号湾岸線にシフトする大型車が増加しています。



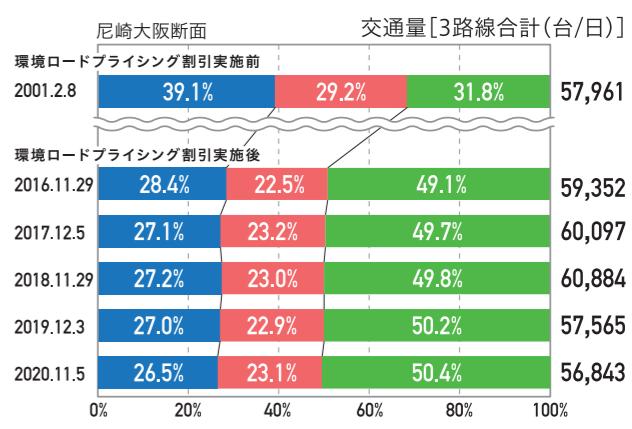
※割引率はご利用区間にによって変わります。

#### ●トンネル区間の排気処理

長大トンネルでは、トンネル内の排気ガスを含んだ空気が坑口から漏れ出することを抑え、空高く排気するために換気所を設置しています。また、この換気所には排気ガスに含まれる浮遊粒子状物質 (SPM) を除去する除塵装置も設置しています。



(注) トンネルにおける換気設備の一般的な働きをわかりやすく図解したものです。  
各トンネルによって、実際の機器などの配置は異なります。



■ 国道43号 ■ 3号神戸線 ■ 5号湾岸線  
センサス大型車道別利用状況・分担率

## 周辺環境との調和

### ●周辺環境と調和した換気所デザイン

大和川線の浅香山換気所では、敷地に隣接する浅香山浄水場のシンボルである円形の高架配水池と調和させるため、楕円形の排気塔や隣接する大和川の形状にあわせた曲面状の外壁とし、また5つの換気所の共通の取り組みとして、水の流れを意識した水平ラインによる外壁デザインとしています。このように、トンネル内の空気を換気する換気所は建物の高さや規模が大きくなるため、圧迫感の軽減に配慮し、周辺環境に調和した敷地を含めたデザインとされています。



浅香山換気所

### ●港大橋・東神戸大橋（湾岸線）のライトアップ

大阪湾ペイエリアのにぎわいの創出と活性化に貢献するため、湾岸線の港大橋と東神戸大橋でライトアップを実施しています。



東神戸大橋

### ●景観に配慮した道路構造物の整備

大阪湾岸道路西伸部では、「みなと神戸」にふさわしい、世界に誇れる景観を目標に検討・設計のうえ整備を進めています。



大阪湾岸道路西伸部模型 神戸西航路部

## 若手研究者助成制度

若手研究者の育成に寄与する社会貢献の一環として、(一財)阪神高速先進技術研究所および(一財)阪神高速地域交流センターとともに、都市の高速道路に関する研究に対して資金を助成しています。2020年度は、構造物、交通工学などの分野から応募いただき、4件の研究に助成を行いました。また、2019年度の助成研究の報告会を開催し、研究者と活発な議論を交わしました。



若手研究者助成報告会

## VR360°バーチャル現場見学会

地域の皆さんをはじめ多くの皆さんに、土木に親しみを感じ、阪神高速の事業や取り組みに理解を深めていただく機会として、当社では「土木の日」（11月18日）協賛行事として土木体験イベントを例年開催しています。2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により対面イベントの開催が困難な状況でしたが、これに代わるコンテンツとして技術力PRサイト「技術のチカラ」内に特設サイト「VR360°バーチャル現場見学会」を開設しました。特設サイトでは2020年11月に実施した1号環状線リニューアル工事2020南行に関する工事現場のVR映像を公開しています。



VR360°バーチャル現場見学会

VR360°バーチャル  
現場見学会  
特設サイト

## 震災経験の伝承

震災資料保管庫は、阪神・淡路大震災での被災経験を風化させることなく後世に継承し、今後の防災対策の研究の一助となるよう、特徴的な被災構造物を多数展示している施設です。当施設は1999年に開設され、行政関係者や大学などの専門技術者、教育機関の防災学習などを中心に見学されてきました。2009年のリニューアル以後は、毎月第1・第3水曜日と日曜日に一般公開し（事前予約制）、より多くの方々にご来館いただいている。また、阪神・淡路大震災から26年以上が経過し、当時の阪神高速道路の復旧に関する経験や教訓、先人の想いを広く伝承していくために、外部機関と連携した企画も実施しています。



震災資料保管庫案内の様子

## 社会貢献活動の推進

良き企業市民として地域・社会の持続的発展に貢献するとともに、自らも成長することを目的に、「安全・安心」「人づくり」「地域・社会の活性化」「環境」を重点テーマとして、保有する人的・物的資源やノウハウを生かした社会貢献活動にグループ一体となって取り組んでいます。

### 人づくり

#### 交通遺児の修学・進学の支援

阪神高速道路上の事故でお亡くなりになった方のお子さまに対する高等学校での修学資金支援を、(一財)阪神高速地域交流センターにおいて行っています。また、グループ社員による募金と阪神高速からの寄付をあわせて（マッチングギフト）、大学などへの進学祝金をお贈りしています。

VOICE

### あれから26年「阪神・淡路大震災」



技術部 技術企画課  
主任  
**増田 崇晃**

これまで当社には、誰もが経験したことのない甚大な地震災害という困難な状況のもと、希望を失うことなく、早期復旧実現に向けて第一線で活躍してきた「人財」が数多く在籍していました。しかし、そのような「人財」も歳を重ね、今や社員の6割以上が震災復旧を経験していません。今後起こり得る災害に備え、私たちは貴重な経験者の「記憶」を映像や文章で「記録」し、後世へ伝えていくことで過去を未来に生かす取り組みを進めています。

## 安全・安心

高速道路での交通事故につながる危険運転を撲滅し、交通事故ゼロを目指すべく、西日本高速道路株式会社、本州四国連絡高速道路株式会社、FM大阪と共に、ラジオ放送やメッセージキャンペーンなどの交通安全啓発活動を行っています。



交通事故をゼロにするための危険運転撲滅プロジェクト

SNDプロジェクトのロゴマーク

## 地域・社会の活性化

### NPO法人への賞味期限切迫非常食の寄付

賞味期限間近の非常食をNPO法人（フードバンクなど）に寄贈し、支援を必要とする方を支える福祉施設や団体などに分配していただくとともに、廃棄ロス削減にも寄与しています。

### 2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)開催に向けて

2025年大阪・関西万博開催に向けて、アクセス道路としての機能確保、インバウンドを含むさまざまなお客様へのおもてなし、美装化・景観の向上などの施策を推進しています。大阪・関西万博を契機に阪神高速道路をより快適にご利用いただけるように新たな技術の開発にもチャレンジし、大阪・関西万博のコンセプトである「未来社会の実験場」を阪神高速道路でも実現していきます。



提供:2025年日本国際博覧会協会

## 環境

### 「阪神高速グループの森」づくり

「尼崎21世紀の森構想」※の拠点施設である尼崎の森中央緑地で、「阪神高速グループの森」づくりを実施しています。2017年12月から、150m<sup>2</sup>の敷地に約200本の苗木を育成し、近隣の野山で採取した種子からの苗木を植樹することで、地域の生物多様性保全にも寄与しています。また、森の育成管理活動を通じて社員の環境意識向上にも取り組んでいます。※「尼崎21世紀の森構想」とは、尼崎市南部の臨海地域（約1,000ha）で、森と水と人が共生する環境創造のまちづくりを進めため、市民、行政、企業などの参画と協働により、100年かけて森づくりを行うもの。



阪神高速グループの森

### エコドライブの推進

エコドライブの啓発や社用車への環境配慮型車両の導入により、道路の管理で使用する自動車の燃料およびCO<sub>2</sub>排出量の削減に取り組んでいます。

### オリジナルエコバッグ配布によるレジ袋削減活動

環境省が推進するプラスチックごみ削減活動「プラスチック・スマート」に賛同、オリジナルエコバッグを作成・配布し、レジ袋の削減に努めています。

### 環境情報の発信

公式ホームページに環境関連のページを設け、道路事業による環境負荷の状況や負荷低減への取り組みなどの情報を公開しています。また、Twitter、Facebook、環境イベントなどさまざまな媒体を通じ、環境への取り組み情報を発信しています。



咲洲こどもEXPO2020

## 国際事業を通じた社会貢献

50年以上にわたる高速道路の運営・管理に関する豊富な経験を生かし、世界各国の道路や橋についての課題解決をお手伝いしています。

### 国際コンサルティング業務の実施

開発途上国では、道路ネットワークの整備、運営・管理において多くの課題を抱えています。阪神高速はその課題を解決するため、アジア、アフリカ各国を対象に、道路・橋梁の維持管理、そして環境社会配慮などの分野を中心に国際コンサルティング事業を展開しています。

### ケニア共和国モンバサ地区での活動

アフリカ大陸の東部に位置するケニア共和国は、当社の国際事業の重点国であり、道路維持管理の分野において国際協力機構（以下「JICA」という）およびケニア国道公社よりコンサルティング業務を受注しています。また、地域最大の国際貿易港を持ち、ウガンダやタンザニアなどに続く東アフリカ北部回廊の起点として開発が進む一方、道路インフラの整備や慢性化する渋滞、交通量のさらなる増加への対応が求められている東部モンバサ地域に着目しています。当社では、この地域において生じている課題に対し、日本のODAにより現地で進行している大型プロジェクトに他企業と共に参画し、道路完成後の維持管理に関する技術支援などを担当することで、これらの課題解決に向けた一翼を担います。

モンバサ地域を対象としたコンサルタント業務の受注実績		
件名	期間	発注者
モンバサ港周辺道路建設の設計・施工管理・維持管理等コンサルティング業務	2013-2025	ケニア国道公社
モンバサゲートブリッジ建設事業準備調査	2016-2019	JICA
モンバサゲートブリッジ建設事業詳細設計業務	2020-2022	JICA



ケニアの道路整備状況



モンバサ位置図

### 専門家派遣、研修などを通じた国際協力

長年JICAを通じて開発途上国へ社員を派遣し、技術指導を行っています。2010年より、ケニアにて当社社員が長期専門家として道路関係機関のメンテナンス能力強化に従事し、現地から高い評価を得ています。また、タイ、カンボジア、モロッコ、中国の道路関係機関とは技術協力に関する覚書を締結し、技術者の相互派遣や研修などで交流を深めています。毎年、海外の政府・道路関係機関職員、学術研究者などの研修生が当社を訪れ、高速道路の運営・管理に関する研修を通して交流を深めています。



タイ高速道路公社からの研修生

モロッコ国営高速道路会社からの研修生

### VOICE

### コロナ禍の世界で再認識する道路の大切さ

技術部  
シニアエキスパート  
小椋 健司

新型コロナウイルスの世界的な蔓延により国際間の人の往来が難しい状況下でも生活物資の物流を支える道路インフラの重要性は世界の共通認識となっています。このパンデミックのなか、道路行政を司る新興国の政府関係者を対象としたJICA道路行政研修がオンラインで開催されました。オンラインのため時差を考慮し、中東アフリカ地域とアジア地域の2回に分けての研修となりました。都市封鎖が行われた国から参加された行政官もいらっしゃり、オンラインでの開催でしたが、道路インフラの重要性が際立った現下の情勢を反映し、実務家同士の白熱した研修となりました。